

楓の森アップデート

学校教育目標：夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成



合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第12号

令和5年(2023年)11月21日
文責 校長 佐藤 政臣

ハーモニーを奏でる

合志市音楽会（合志楓の森ブロック）

保護者の皆様には、寒い中に合志市音楽会(11/17)にご参会いただきまして誠にありがとうございます。合志市音楽会は、各中学校区をブロックとして、今年度から再び行なうことができるようになりました。

この合志楓の森中学校区では、開校以来コロナ禍でできなかったため、今回が記念すべき第1回目の小中音楽会になりました。今回の出場クラスは、小学校が4年生(合唱、合奏)と5年生(合奏、合唱)、中学校は、合唱コンクールで金賞に輝いた1年1組、2年1組、3年2組、そして吹奏楽部です。

このように、小学生と中学生が一堂に会して行う小中音楽会ができるようになったことをうれしく思います。それでは、プログラムごとに私の感想を述べます。

○プログラム1番 中学校 1年1組

合唱：「この星に生まれて」、「きみと歩こう」

一生懸命に心と音を合わせようとする姿が伝わってきました。歌詞の一つ一つの意味、例えば「夢をあきらめないで～」など・・・その歌詞と自分を重ねて歌っていることで、その思いを表現することができました。心がこもったすばらしい歌声でした。

○プログラム2番 中学校 2年1組

合唱：「島唄」、「大切なもの」

歌詞の意味を客席に届けようとする努力が伝わってきました。特に、気持ちの上がり下がり伝えるために、強弱の工夫がなされていて、メリハリのある生き生きとした曲に仕上がっており、本当に感心しました。声量もあり、自分自身を歌詞に重ねて歌うことができ、すばらしい合唱でした。

○プログラム3番 小学校 4年生全員

合唱「今日から明日へ」

合奏「やさしさに包まれたなら」

合唱は、元気いっぱいの中に、すみ渡る声で歌うことができました。

また、合奏は、体を揺らしながらノリノリで演奏している姿が印象的でした。その姿から「音楽が心から大好きなんだなあ」と思いました。これからは明るく響き渡る歌声、元気でリズムカルな演奏に心がけて取り組んでほしいと思います。

○プログラム4番 中学校 3年2組

合唱：「大地讃頌」、「君と見た海」

ステージに上がるために、絶対に必要なこと。それは「聴いた人に感動を与えること」です。確かな音程や、ハーモニーの美しさも大切ですが、何より感動を生むのは、どれだけ一生懸命に「この1曲を届けたい」という気持ちがあるか、ということです。その姿が歌声から伝わってきました。

日々の暮らしに追われていると「平和な大地」や「静かな大地」は、当たり前のように思えるかもしれません。しかし、世界中の国々が戦争や災害の被害に見舞われています。そんな中、平和で静かに過ごせることは、それだけで尊く、ありがたいことかを褒め称えようと伝えていることが「大地讃頌」の歌声から伝わってきました。

○プログラム5番 小学5年生(合唱・合奏)

合唱「赤い屋根の家」

合奏「残酷な天使のテーゼ」

合唱は、高音と低音のパートをお互いが意識し、よく聴きながら合わせて歌うことができました。合奏は、リズムカルでメリハリがあり、迫力満点の演奏ができました。聴いている人たちも体を揺らしながら楽しく聴いていました。元気いっぱいの演奏で大変良かったです。

○プログラム6番 中学吹奏楽部

「2023ヒットメドレー、ダンスホール、マリ
ーゴールド他」

一番すばらしいのは、演奏している皆さんが楽しんで演奏していることです。皆さんは、生き生きと演奏していて、聴いている私達も自然と体が動いてしまいました。また、観客を巻き込んだ取組は、楽しいダンスなどもあり、小学生も喜んでいました。私も中三男子と女子の間に入って踊ってしまいました。これこそ音楽がもっている力だと思います。吹奏楽部はなくてはならない存在です。これからも練習をがんばってください。応援しています。

～ 総 評 ～

合奏・合唱は、技術よりも、全員のチームワークこそが大切であり、その成果がよく表れていたと思います。合奏や合唱の練習で学んだチームワークや本番で力を発揮できるやりぬく力は、必ず将来、役に立つことでしょう。

これだけの合奏や合唱が出来るのは、さすが合志楓の森小・中学校の子どもたちだと感心しました。このチームワークを今後の学校生活にもいかしてほしいと願います。

学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては
毎日ホームページを更新していますので、ご覧下さい
<https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/>

楓の森小HP

